

高松サンポート合同庁舎記者クラブ
徳島県政記者クラブ
池田日刊新聞放送記者会

令和2年11月20日
四国地方整備局
四国山地砂防事務所
徳島県
三好市

大規模土砂災害対応訓練を実施

～新型コロナウイルス感染症に配慮～

南海トラフ地震や豪雨に伴い、発生が懸念される大規模土砂災害に対し、関係機関が連携し被害の軽減を図るため、合同対応訓練を実施します。

訓練は国土交通省のみならず、地方公共団体（県・市）など、実際の災害時に関係する機関が一堂に会し、より実態に近い形で連携を確認することを目的に実施します。

◆大規模土砂災害を想定した合同対応訓練

1. 開催日時・場所

- ・令和2年11月26日（木）13：00～17：00【受付開始12：30】
- ・「旧有瀬小学校 体育館（3階）」（三好市西祖谷山村有瀬414-1）

2. 訓練概要、参加機関

- ・別紙-1のとおり。

3. 訓練見学

- ・新型コロナウイルス感染症の感染防止対策の一環として、**訓練見学は参加機関の関係者のみに限定**させていただきます。
- ・記者席については用意しています。

4. その他

- ・訓練は新型コロナウイルスの感染拡大防止に努めて実施します。取材をされる方におかれましても、マスク着用にご協力いただきますよう、よろしくお願いいたします。

本施策は、四国圏広域地方計画「No.1南海トラフ地震を始めとする大規模土砂災害等への「支国」防災力向上プロジェクト」の取り組みに該当します。

問合せ先（○：主たる問合せ先）

国土交通省 四国地方整備局 河川部 河川計画課 TEL:087-851-8061
課長補佐 青木 朋也（あおき ともや）
国土交通省 四国地方整備局 四国山地砂防事務所 TEL:0883-72-5400
○副所長（技術）吉岡 修一（よしおか しゅういち）
徳島県 県土整備部 砂防防災課 TEL:088-621-2542
課長補佐 住友 厚（すみとも あつし）

今回の訓練では、新型コロナウイルス感染拡大防止の観点より、部分集合形式にて実施するとともに、訓練参加者による訓練会場の過密状況为避免のため、各機関とWEB会議も活用し実施します。

1. 訓練日時

◆ 令和2年11月26日(木) 13:00~17:00
【受付開始12:30】

2. 訓練会場

◆ 旧有瀬小学校 3階 体育館
徳島県三好市西祖谷山村有瀬414-1

3. 参加機関

- ◆ 国 : 四国地方整備局
四国山地砂防事務所
- ◆ 徳島県: 危機管理環境部 とくしまゼロ作戦課
県土整備部 砂防防災課
西部総合県民局 県土整備部(三好)
地域創生観光部(美馬)
- ◆ 三好市: 危機管理課、工務課、管理課、西祖谷支所
- ◆ JR四国
- ◆ 四国山地砂防ボランティア協会

4. スケジュール

12:30~13:00	集合・受付
13:00	開会
13:00~13:10	開会挨拶
13:10~13:20	訓練の進め方の確認
13:20~16:30	学習型合同対応訓練
16:30~16:40	ふりかえり・意見交換
16:40~16:55	全体講評
16:55~17:00	閉会挨拶
17:00	閉会

5. 訓練の目的

- 1) 土砂災害警戒区域等における土砂災害防止対策の推進に関する法律(土砂災害防止法)ならびに災害対策基本法に基づき、**河道閉塞**や**地すべり**の発見から**住民への避難指示(勧告)発令及び解除の判断**等までの一連の流れの中で、各機関が果たすべき**責務・役割**について確認すること。
- 2) 各機関の**役割分担**を把握し、現在の**問題点**を把握することで各機関間の**連携強化**につなげるとともに、大規模土砂災害に対する**知識の醸成と意識の向上**につなげる。

6. 学習型訓練とは

進行者

訓練参加の各組織をひとつの災害対策本部、もしくは災害対策支部と見立て、それぞれに質問する。



「〇〇で大規模な崩壊が発生し、△△の状態になっている。」との報告が入りました。あなた方の組織では、どのような行動をとりますか？

回答者を特定して当てることはしない。あくまでも訓練参加組織に対して質問し、組織として回答する。

訓練参加者

質問内容に応じて、訓練参加組織内での回答者を決め、発表を行う。



私たちの組織では、〇〇を第一に考え、〇〇を行います。

回答者は与えられた設問に対して、その場で考え、すぐに回答する(周囲から助言をしても良い)



徳島県東みよし町(令和元年度) 合同対応訓練の様子

学習型訓練の特徴

1. 訓練シナリオ(訓練の進行状況)の理解	進行者とその都度状況説明を行うため、 全員が同じ状況を認識、共有、理解 できる。
2. 他機関の災害対応の理解	各機関の回答を聞くため、 他機関がどのような対応 を行うか理解できる。
3. 時間軸	進行者が状況をその都度説明し、時間軸にとらわれず、 重要な場面等を切り出して訓練 を実施できる。
4. 見学者の理解	参加者と同様に状況説明や回答を聞いているため 参加者と同程度の理解 ができる。途中から見学してもある程度理解できる。